宝生会　月並能

二〇一九年十二月八日（日）
開演　十三時
開場　十二時十五分
於　宝生能楽堂

14:00

頼政

シテ　辰巳満次郎
ワキ　殿田　謙吉
間　内藤　連
大鼓　亀井　忠雄
小鼓　大倉源次郎
笛　小野寺竜一
後見　高橋　章　小林与志郎　東川　光夫
地謡　澤田　宏司　今井　泰行　小林　晋也　小倉　敏克　小倉健太郎　大坪喜美雄　高橋　亘　金森　秀祥

14:25

痩松

石田　幸雄　岡　聡史

〈休憩十五分〉

14:55

花筐

ツレ　山内　崇生
子方　藪　俊太朗
シテ　當山　孝道
ワキ　野口　敦弘
大鼓　柿原　崇志
小鼓　観世新九郎
笛　松田　弘之
大返　ワキツレ　野口　能弘　〃　野口　琢弘　〃　吉田　祐一
後見　三川　淳雄　武田　孝史
地謡　和久荘太郎　登坂　武雄　小倉伸二郎　亀井　保雄　大友　順　田崎　隆三　佐野　登　金井　雄資

16:35

乱

シテ　藪　克徳
ワキ　高井　松男
大鼓　大倉栄太郎
小鼓　森澤　勇司
太鼓　桜井　均
笛　一噌　幸弘
後見　宝生　和英　前田　尚廣
地謡　内藤　飛能　朝倉　俊樹　高橋　憲正　中村孝太郎　水上　優　佐野　由於　野月　聡　藤井　雅之

終演予定　十七時二十分頃

演目の解説

能「頼政」（よりまさ）

宇治の里に立ち寄った諸国一見の僧が、山の姿や川の流れを眺めていると、老人に声をかけられます。僧が宇治の名所旧跡を尋ねても、老人ははっきりとは答えず、ただ宇治川の方に案内して平等院に僧を誘います。扇の形に芝だけが残っているのを不審に思った僧が尋ねると、老人は昔この場所で源三位頼政という武将が扇を敷いて自害した所と答え、自分は頼政の霊であるとほのめかして消え失せます。僧が頼政の跡を弔っていると、老体の武者姿で頼政が現れ、宇治川を隔て奮戦したが、敗れて自害するまでを語ります。

狂言「痩松」（やせまつ）

丹波の国（現在の京都府・兵庫県あたり）に住む山賊が、最近稼ぎが悪いので、今日こそ何とか獲物を得たいと谷間に隠れていると、女が通りかかる。山賊は長刀を振り上げて女を脅し、持ち物を奪い取って獲物を物色するが、隙をつかれて女に長刀を奪われてしまう。長刀を向けられた山賊は手も足も出なくなり…。

能「花筐　大返」（はながたみ）

越前の国にあった大迹部皇子は神武天皇の五代後に当たっていましたが、武烈天皇の後継として継体天皇となり急遽都に上ることになりました。皇子に仕えていた照日前はたまたま宿下がりをしていたところに、皇子の臣下から文と花筐を手渡されます。皇子が皇位を継承した事を喜びながらも断ち切れぬ想いから侍女を伴って天皇の後を追い、大和玉穂の宮で一行に追いついた照日は、天皇の前で、李夫人を想う漢王を謡った舞を舞い、再び召し使われることになり、共を許されます。

能「乱」（みだれ）

楊子の市で酒を売る孝行の男、高風の処に、いつも立ち寄り酒を飲んで行くものがあった。不審に思った高風が名を尋ねると、海中に住む「猩々」と答え親孝行な高風に、酌めども尽きぬ酒壷を与えるので瀋陽の江まで来るようにと言います。高風が瀋陽の江で待っていると、猩々が現れ、舞を舞って去って行きます。能は高風が瀋陽の江に行くところから始まり、「猩々」の常の中ノ舞が、波の上を戯れるような特殊な足遣いをする「乱」という舞に変わり、そのまま曲名にもなりました。

次回予告

二〇二〇年一月十二日（日）十四時始

翁　宝生　和英
竹生島　翁附之式　宝生　和英
田村　高橋　亘

文化庁文化芸術振興費補助金
劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会